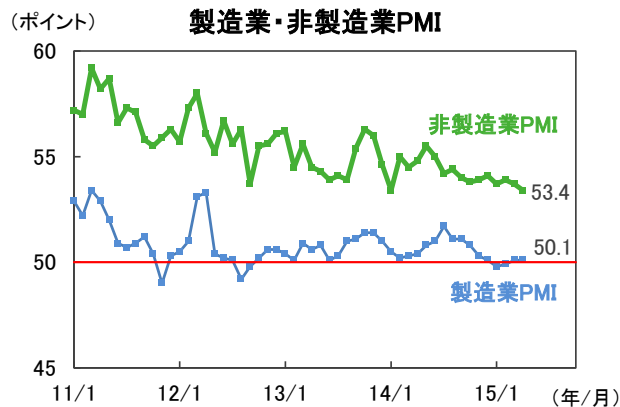


今日のトピック 最近の指標から見る中国経済(2015年5月) 景気減速から、追加金融緩和へ

ポイント1 4月以降も景気は減速 製造業、非製造業ともに減速

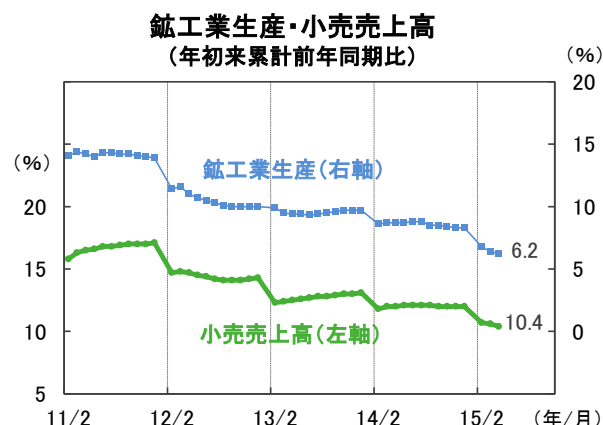
- 4月の製造業PMI(購買担当者景況感指数)は50.1と3月から横ばいでした。4月の生産は年初来累計ベースで前年同期比+6.2%の増加と、3月の同+6.4%の伸びを下回りました。
- 4月の非製造業PMIは53.4と3月から低下しました。4月の小売売上高は、年初来累計ベースで前年同期比+10.4%と3月の同+10.6%から鈍化し、景気減速が4月以降も継続しています。



(注) データは2011年1月～2015年4月。数字は2015年4月。
50ポイントは好悪の判断の境目。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価は低位で落ち着く 内需減速からデフレ懸念強まる

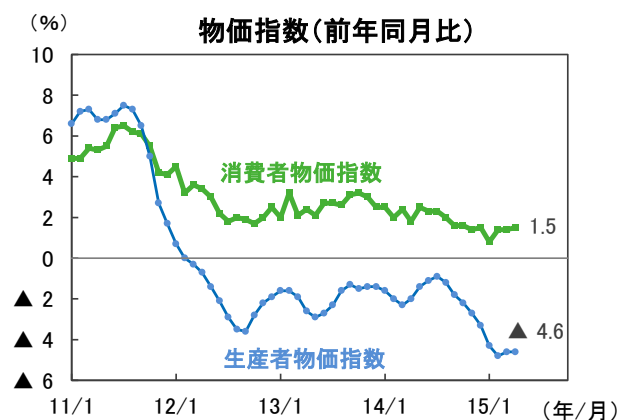
- 物価は低位で落ち着いており、2015年の目標である前年比+3%前後を下回って推移しています。
- しかし、内需減速から、足元で生産者物価の前年比の下落幅が拡大傾向にあり、デフレ懸念が強まっています。



(注) データは2011年2月～2015年4月(各年1月を除く)。数字は2015年4月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 追加金融緩和などにより、 成長目標達成が期待される

- 政府・中国人民銀行(中央銀行)は、4月19日に今年2回目の預金準備率を引き下げ、5月10日に昨年11月以降で3回目となる政策金利の引き下げを行い、景気テコ入れを図っています。
- 政府は経済構造の転換を目指していることから、これまでのような大規模な財政出動を避け、金融緩和と、規制緩和などによる産業政策に景気対策の重点を置いています。今後、追加金融緩和に加え、ITの活用などによる先端産業の育成強化、輸出やインフラ投資の拡大を目指す「一帯一路」や自由貿易試験区の推進が見込まれます。これらにより、7%前後の成長目標の達成が期待されます。



(注) データは2011年1月～2015年4月。数字は2015年4月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック! 2015年05月19日 「70都市住宅価格指数」は底打ちへ(中国)
2015年05月11日 「自由貿易試験区」が4カ所に拡大(中国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。